

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

7

小曾路名所圖會

四

木曾路名所圖會卷之四

目錄

上諏方神社

御供所

大御手洗

繪馬舎

大黒天

下諏方神社

社

神樂殿

御手洗

神宮寺

金堂

高嶋城

夜ヶ寄

兼摩堂

諏方温泉

須波乃洲

富士山眺臺

天龍川水源

御射山

保原のまき

長窪

和国大山頂

石荒坂

上和田

大門嶺

長窪

海野平

更級

石荒坂

石割坂

蘆田

望月

望月城趾

大伴神社

瓜生坂

姨捨山

望月御牧

角摩川

瓜生坂

瓜生坂

瓜生坂

城光院

八幡宮

筑摩川

川中島古戦場

瓜生坂

瓜生坂

八幡

八幡宮

筑摩川

石馬圖

相生松

相生松

八幡

八幡宮

筑摩川

石馬圖

相生松

相生松

○ 岩村田

○ 進分

○ 諏方祠

○ 寛石

○ 熊野権現

○ 横川開隘

○ 松井田

○ 天馬宮

○ 繪馬舎

○ 飯綱宮

○ 御湯金

○ 辨財天

○ 瘡癩神

○ 橋

○ 琵琶窪

○ 貫前神社

○ 住吉祠

○ 北陸道別路

○ 蓼科神社

○ 輕井澤

○ 信濃上野塚

○ 百合若足跟石

○ 八幡宮

○ 大御宮

○ 護摩堂

○ 中音堂

○ 隨身門

○ 稲荷堂

○ 石階

○ 原一村

○ 八幡宮

○ 忍ぶ原

○ 浅間嶽

○ 寄掛

○ 碓日嶺

○ 刃石坂

○ 日射拔岩

○ 妙義山

○ 本社

○ 御香社

○ 御喜天

○ 御天

○ 石階

○ 大黒天

○ 安中

○ 若宮八幡

○ 小田井

○ 浅間山記

○ 塩沢

○ 坂本

○ 園山坂

○ 神樂社

○ 波古社

○ 神樂殿

○ 辨財天

○ 飯綱

○ 石階

○ 鳥居

○ 板鼻

○ 鳥川

○ 新阿

○ 岡部原

○ 觀音堂

○ 熊谷重實古城

○ 綱古跡

○ 大宮

○ 浦和

○ 戸田川

○ 平塚祠

○ 富士権現

○ 湯嶋天神社

○ 高崎

○ 佐登長者趾

○ 金鑽社

○ 岡部忠澄趾

○ 熊谷

○ 久下

○ 鳩巢

○ 氷川神社

○ 調神社

○ 後吉稻荷

○ 王子社

○ 神明社

○ 佐登舟橋

○ 会加野

○ 上登武蔵塚

○ 普濟寺

○ 熊谷寺

○ 吹上

○ 桶川

○ 大宮原

○ 燒茶坂

○ 縁切坂

○ 稲荷社

○ 田畑八幡

○ 定家卿宮

○ 辛庄

○ 深谷

○ 箕田八幡宮

○ 上尾

○ 針替村

○ 蕨

○ 板橋

○ 飛鳥山

○ 根津社

○ 佐北順世蹟

○ 新阿

○ 岡部原

○ 觀音堂

○ 熊谷重實古城

○ 大宮

○ 浦和

○ 戸田川

○ 平塚祠

○ 富士権現

○ 湯嶋天神社

○ 湯嶋天神社

妻急稻荷
聖堂

日本橋
神田社

耕牛頭八穀

倒吉社

人丸社

本曾路名所圖會卷之四目錄終

本卷四目ノ二

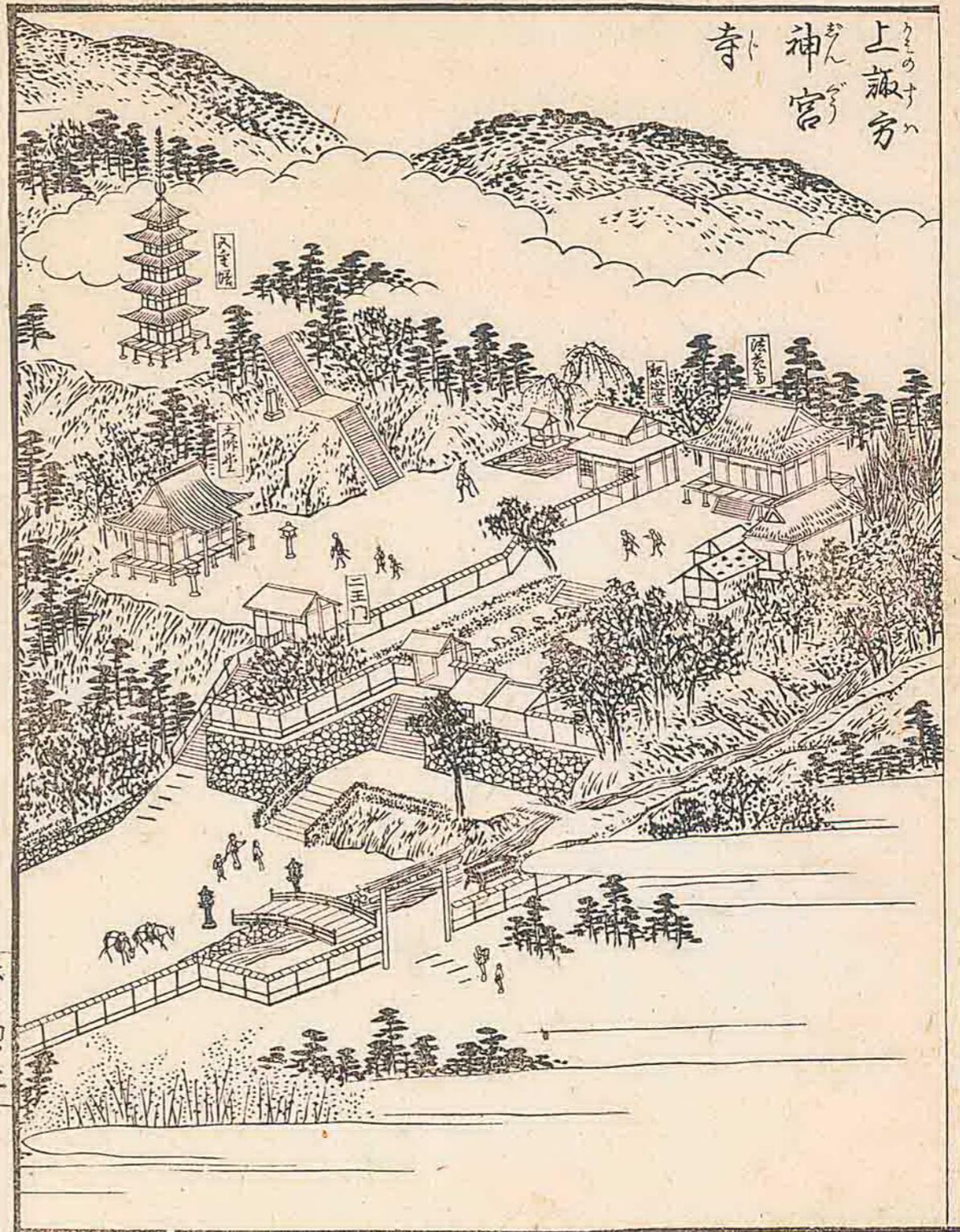
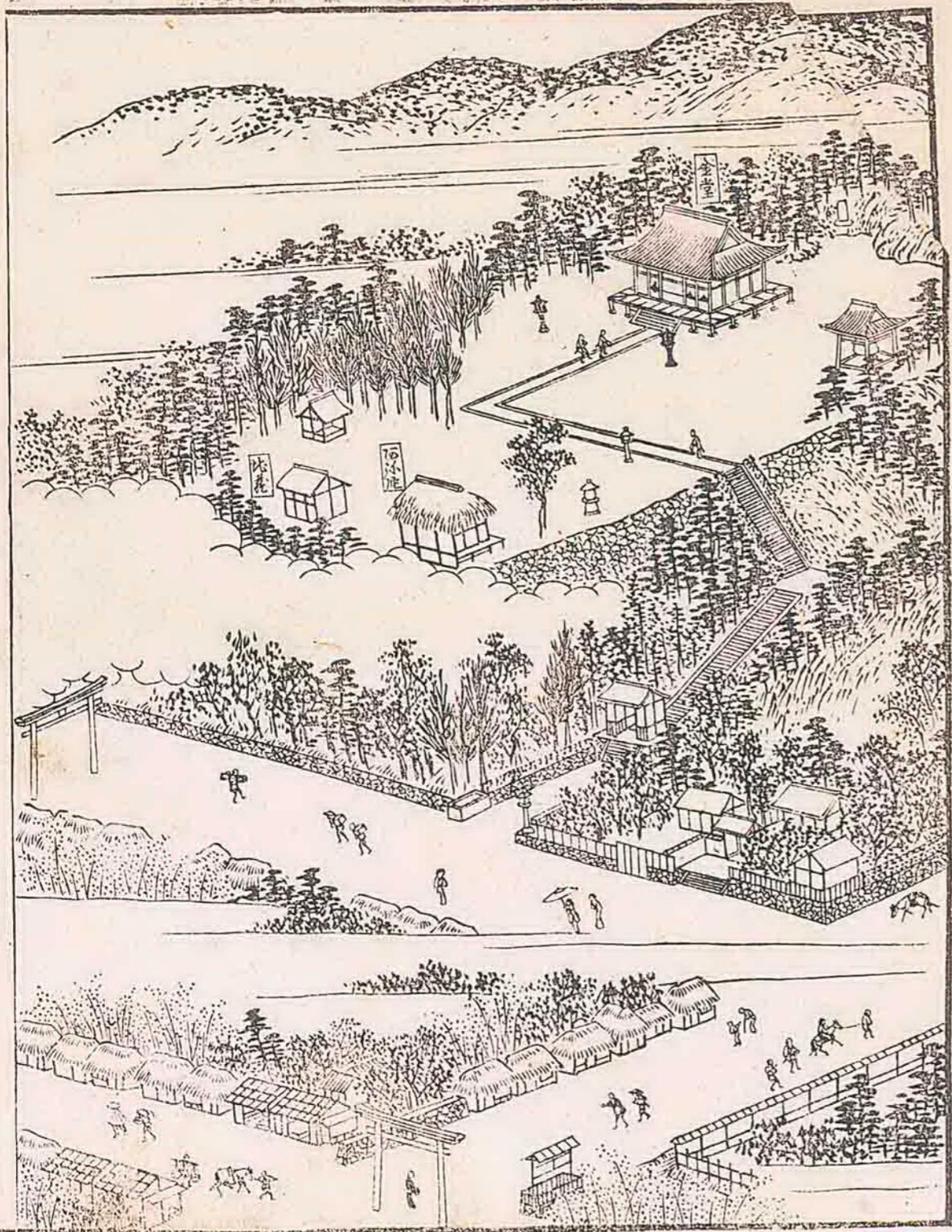
上飯方
富士山遠景

妻はしけ
その

富士
山遠景

代明





上蔵方
神宮
寺

本方四ノ二

木曾路名所圖會卷之四

上諏方神社 下後方より三里あり延喜式名神大月次二座

新葉 あたるはる瀬波の系乃みくを志を育む神のちひる 宗良親王

祭神 健御名方命

續日本紀

美和九年四月授无位勳八等南方刀美命神
從五位下同十月授无位健御名方富命前八

文德實錄

坂刀賣神從五位下
嘉祥三年十月授兩神並從五位上仁壽元十
月進兩大神階加從三位同八月兩大神祝預

三代實錄

貞觀元年正月授正三位勳八等建御名方富
命神從二位從三位八坂刀賣命神正三位同
二月授兩大神正二位從二位同七年七月當

郡水田三段為南方刀美神社田同九年三月

進兩神階加從一位正二位云云

拜殿 南向美禰神宮の麻のめがり階あり

御供所 彩色内障神社し和列三階のめが

文庫 日向のふ

新禱所 日向のふ

繪馬殿 板屋のあ

護摩堂 板屋のあ

三十九間廊下三十九所の末社あり 所政大明神

前宮社 砥並社 若御子社 拍手社

楠井社 大歳社 荒玉社 千野河社

溝上社 瀬大社 玉尾社 穗謨社

藤島社 内御玉社 鷄冠社 酢藏社

習焼社	御座石	御飯穀	相幸社
若宮社	大西御庵	山御庵	御佐久田
闕庵	八劔社	小坂禰守	鷺宮明神
萩宮明神	達屋明神	酒室明神	下馬明神
御室明神	御賀摩明神	砥並山神	義倉會美酒
神殿中部屋	長廊社	以上一棟廊下之側に禰座は	
大福殿	廊下の入口		
御柱	廊下の内		
大黒天社	本社の外より		
勅使殿	其外未社二番		
六角井	社内東方		
神樂殿	日東の方		
御手洗井	六角井より		
	勅使殿の傍より		

金堂 神宮の西の山の上あり
五重塔 金堂の傍あり
鐘堂 塔の傍あり
釋迦堂 石殿の下
大昨堂 釈迦堂の西あり
神宮寺 真言宗
尚社 科擧の國一の宮ありて特小上誦方と神領度くして
社美 藤なり例祭と年中七十五夜あり其中小毎茶三月圓日
 三ッあり六中と用也二ッあり初を用也麻の頭と七十五組の世神茶
 小供と又別麻の肉が料理しそあ社人も其麻の肉と食は他人
 麻肉并小獸と喰んとする所と神小形して社人より箸をきて喰は
 據形しとせしは上下七奉に一度申奉御極とて其
 あり遠近四方より諸人多く集ると其祭式者多しなり爰も古來

より申傳ふ七石思儀中より幸りて新徳御酒八榮鈴御作田
 浮瀧根入杖御射山湯口清濁等あり清波と信濃と日幸
 るく寂地多しして寒余清波に因るる信濃方の船乃よふをよめて
 氷よりて舟二日若瀧乃れ舟四又日の頂上の船方より下れ船方ん
 方小横幅五尺をりたる本なるるの通るゆく氷の上よふあしを
 見ゆるに種例年必あり奇怪の事これ清波と又神先とを
 下は清波のるる後人ける清波のるる因る清波に氷層より之幸に
 よるる清波のるる上の船方よるる幸のりり下下の船方の方小
 清波ある所をわらふ其所よりて年の豊凶成るる清波
 一文字小伝に或るゆがむ幸あり

和国一山路五里八町諏方の駅一千町并もあり昔人多く旅舎
 小出女あり夏敷あり少あれどもさげ宮守して寒烈し

北の坂の下に小樽屋あり

毎歳正月朔日小遊しまふ

本巻四ノ五

信濃
 下諏方

祭神 上諏方と同神

若宮

神樂殿
 伊勢両宮

回廊

竈殿

諏方

秋宮 七月朔日あり小うはしを敷敷度神あり
 空社あり

舊事紀

天孫降臨時。大己貴神第二之子。健御名方命。
 欲拒天孫。於是經津主神遣岐神逐之。健御名
 乃命逃到信濃國諏訪郡。迫甚。而請曰。願得此
 郡。以為父母之讓。不為天神之怒。而作吾居。則
 吾豈奉背天孫哉。因茲經津主神以諏訪一郡
 附于健御名乃命。是即諏方明神也。
 大物主神子。健御名乃美神者。事代主之弟也。
 今諏方明神是也。一云神功皇后征三韓時。天
 照大神託以住吉明神。諏方明神令為輔佐。

神皇正統記

諏方湖

下諏方

神宮寺

高海城

諏方の湖

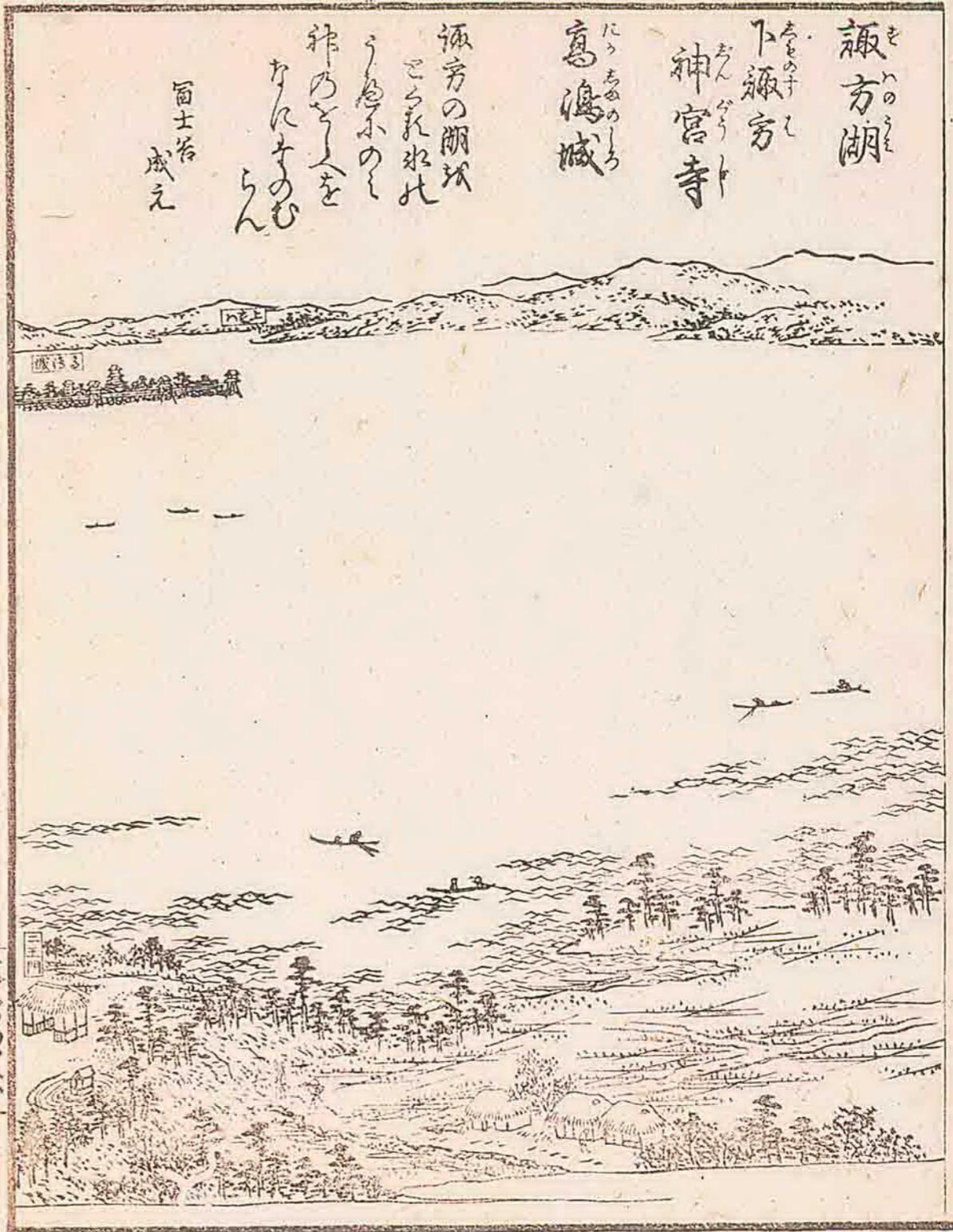
こられ水

うき水

非乃と人を

かたすのむらん

富士岩 威え



本巻の四六

とらの海や

水乃知りに

乾りくま

空井小

うらた

雲お

うの松

八幡 美濟

ふら山



又云 信濃諏方下野宇都宮專狩獵供鳥獸

名也一抄下之諏方此街道の駅也て旅舎多く紅華池不
辨すまらううれ女たちほぐひとあらんせくや神ひを紋取らりそ
棧ひれく乃是とて心所の中に温泉ありてけ宿の女ありて
浴衣の白紙飛つた浴衣を其介と名づの者人多く旅中此旅舎に
須波乃湖 周十一里餘直三里許裡錦龜甲あり今も水清くて
いよよ及ぶるその夜玄々の湖面風のらひてより氷積らん

おご

極川院後百首

壬二集

拾玉

山家集

交本

まの湖氷れ指もまの結乃渡りてさる打るなり 秋仲
そまの湖氷れ指もまの結乃渡りてさる打るなり 秋仲
旅方此をまの結乃渡りてさる打るなり 秋仲
まの湖氷れ指もまの結乃渡りてさる打るなり 秋仲
まの湖氷れ指もまの結乃渡りてさる打るなり 秋仲

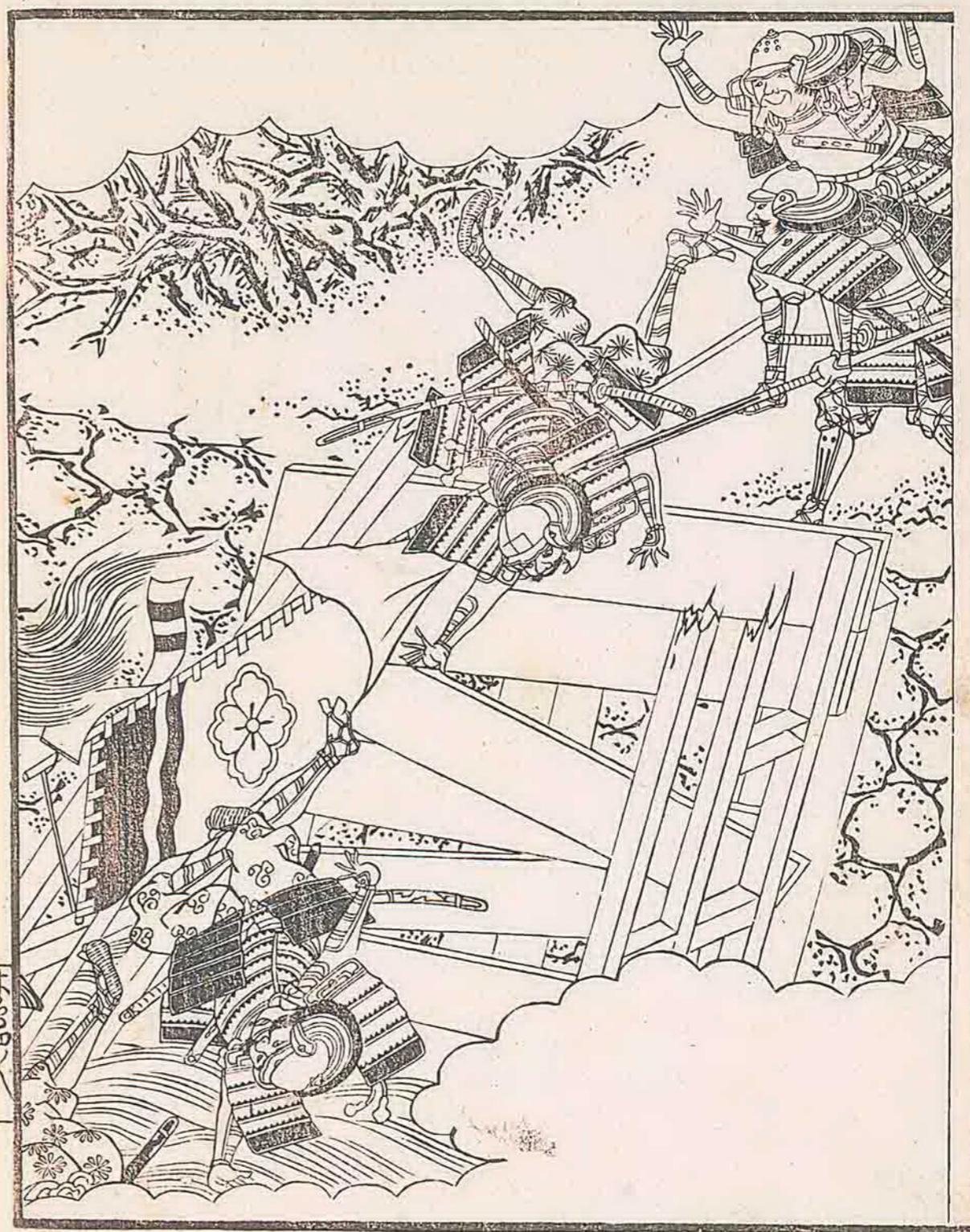
本巻四十七

日

まの湖氷れ指もまの結乃渡りてさる打るなり 秋仲

は湖まの湖氷れ指もまの結乃渡りてさる打るなり 秋仲
氏家衆一四方ありて風色斜るは漁父ありて有
て魚鱗氷れ指もまの結乃渡りてさる打るなり 秋仲
湖氷れ指もまの結乃渡りてさる打るなり 秋仲
ぬらり幸れ寒温ふらりて霜月のらありて作をれ初り
氷をるて後人まの結乃渡りてさる打るなり 秋仲
中氷のうをゆきて氷水の厚さ年あり八九寸一尺許あり其
上氷何程乃大木大石をまの結乃渡りてさる打るなり 秋仲
くは氷のうをゆきて氷水の厚さ年あり八九寸一尺許あり其
めくづんをまの結乃渡りてさる打るなり 秋仲
日本國中に湖ありて氷のうをゆきて氷水の厚さ年あり八九寸一尺許あり其
日本もく地高くして氷のうをゆきて氷水の厚さ年あり八九寸一尺許あり其

武田勝頼ハ
 我勇威を
 自負一々
 神佛とぞ敬
 せ代る遠
 赴き冷ひ一
 時
 忽ち板橋崩
 危れ幸多
 ぶ統張方の
 神乃
 幸ふまると
 許トコロ



水の下に網を引を引列中より種又奇異の業有り水底を所長く
らめて其所より網を入す其先成らば行乃草を持て其先成ら
ず亦不より次ゆらめらる所中もあみを送る爲めて其所もわく乃
おとくもらめらて網を引落くもて魚を獲むわくわくわく
ざる事を知りてそまを漁人をもつとせむとて又水とら
漁をふるも腰よ長た竿は接む意あやうて着入ふも竿あく
死とせぬもやせりり或は沈没の人あまの番よ家鶏をへく水の上と
り小鷄なくもろてて屢を降とて

高嶋城 下の海方よりき里小あり 諏訪周傍の宇及居城く三万石味
縄糸又開きり有り左右と海方より海方あり川より舟の
出入自由方をは味と山幸島助晴幸繩張ととり
衣裳濟 富士山の朝うけり所と
丈夫 須波のうみこ船をのみさるあはれと有りしお母のはの
すの海衣が借本とて見れい富士のうきお母のけり

大納言氏

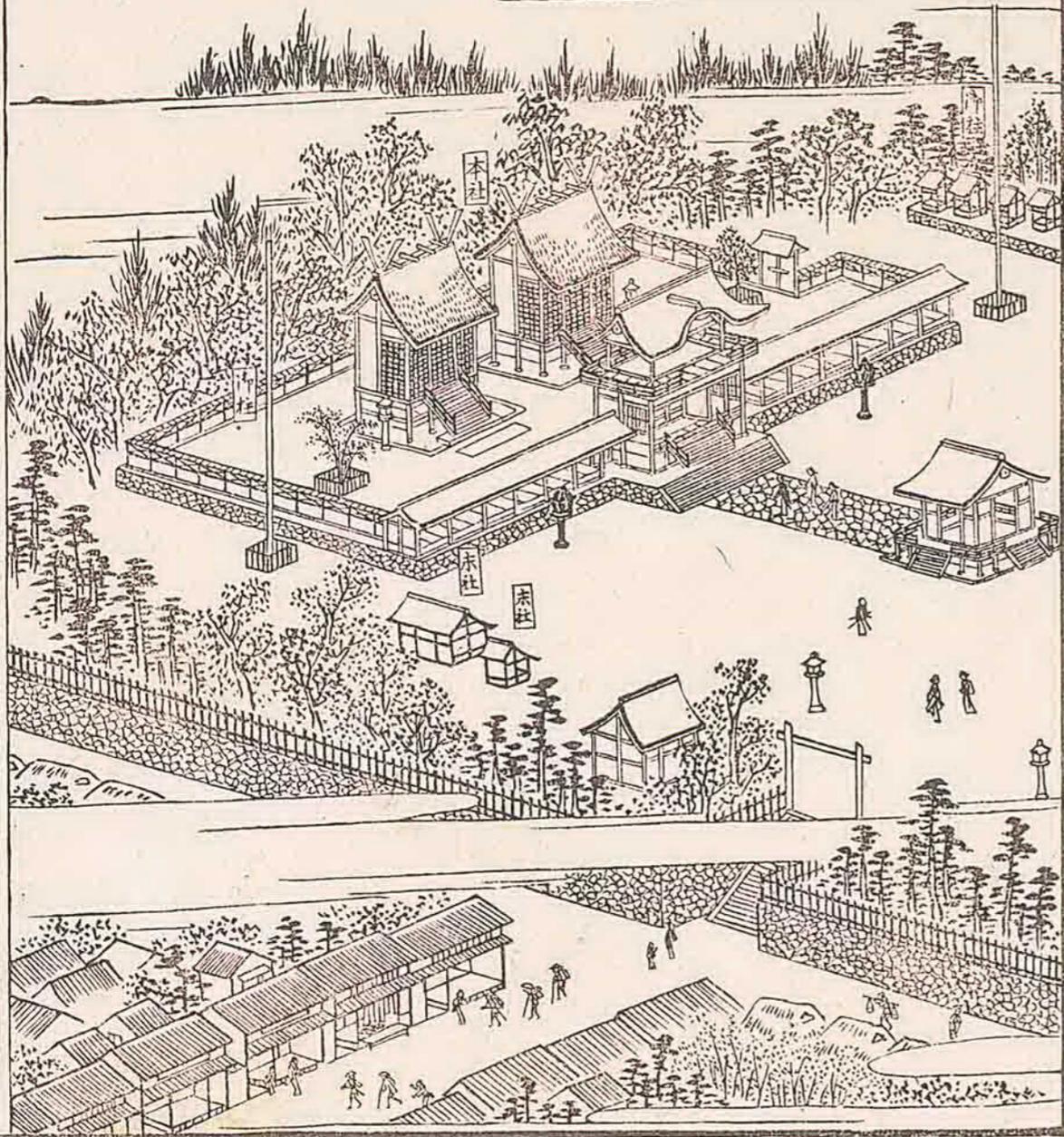
諏訪温泉 外海方三所あり 権人及び新中の人と平生
を別川村本の権人として上酒方の湖邊
富士山眺を 下海方の湖邊あり 上酒方の湖邊
よりを舞見あり 新中とみ里海あり

天龍川水源 其の湖の傍は天龍川なり 其の東海邊天龍川
が中より其西の山を守りて湖に良みありやと
八がげけとてこれ小田井のうきと見ゆる八岐の山あり何と
高ふかりとてこれ湖乃めぐり此小川みうぐひとて魚多く
妻のゆあふとてこれ湖乃めぐり此小川みうぐひとて魚多く

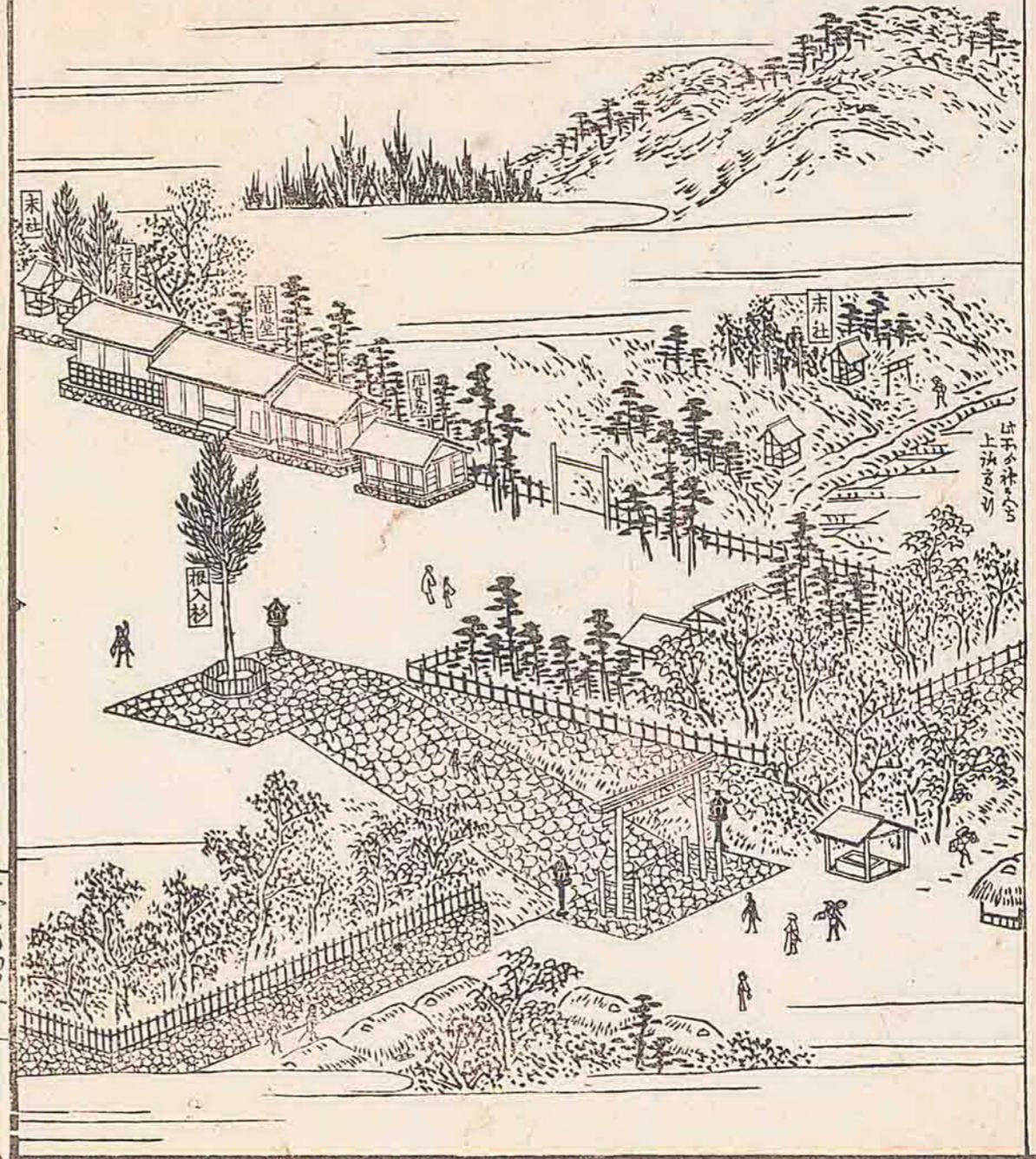
御射山 止海方北の山とて
射と矢の標旗なり
とてゆき種をたぬるの二ひふきり一里ありの山
金刺盛久

玉葉
とてゆき種をたぬるの二ひふきり一里ありの山
金刺盛久

類題
 宮程
 幾つこい
 ちん
 君く代々
 うこう也
 天乃下津
 岩杉小
 道遠院



下諏方
 秋宮
 上社
 下社



毎やう一丈月廿六日沖射山狩ふらで申して月廿九日幸の祈ふ
つを祈ふ長官五領家等ののりを成候はうとてたをそとて暮
つらつ神瓜積登乃神幸とて

保彦はまらた 諏訪郡沖射山神戸の東八ヶ嶽の麓を抜登野
生八所を 又筑摩郡本所の山に為水の神を
保彦野を

社中抄 志未成なるははまらたも風俗をそとてはそとてありたれ
顯昭云はやのつらつ所志の國小育其節よありたれ
今小縣郡保彦の地名ゆめ

文永二年九月十二日夜野鹿を

續古今 志未成なるははまらたの社風ふそとて是鹿も妻とて候 岡白太左

去雨抄 昭々海とほやれとありたそとてそとてありた 漢人そとて

鎌倉名鷹狩ふより 雁方の沖候に家々の鷹狩に備てあり

東鑑 建曆二年八月記云可禁斷鷹狩但於諏方

大明神御贄鷹者被免之云云

本巻四十一

信太社百者 信法あるはやの層をうらたひき法結も世とてふは為人 宗良親王

風祝部

袋料子 志未成なる本巻の櫻候ふる風のはうそとてありた 保彦親

日料子 信法のあるはやの層をうらたひき法結も世とてふは為人

信法の國をきらたて風早れ所よりして雁方明神の社小風乃

経堂のふものそとてそとてそとてそとてそとてそとてそとてそとて

百日の間尊をそとてそとてそとてそとてそとてそとてそとてそとて

そとてそとてそとてそとてそとてそとてそとてそとてそとてそとて

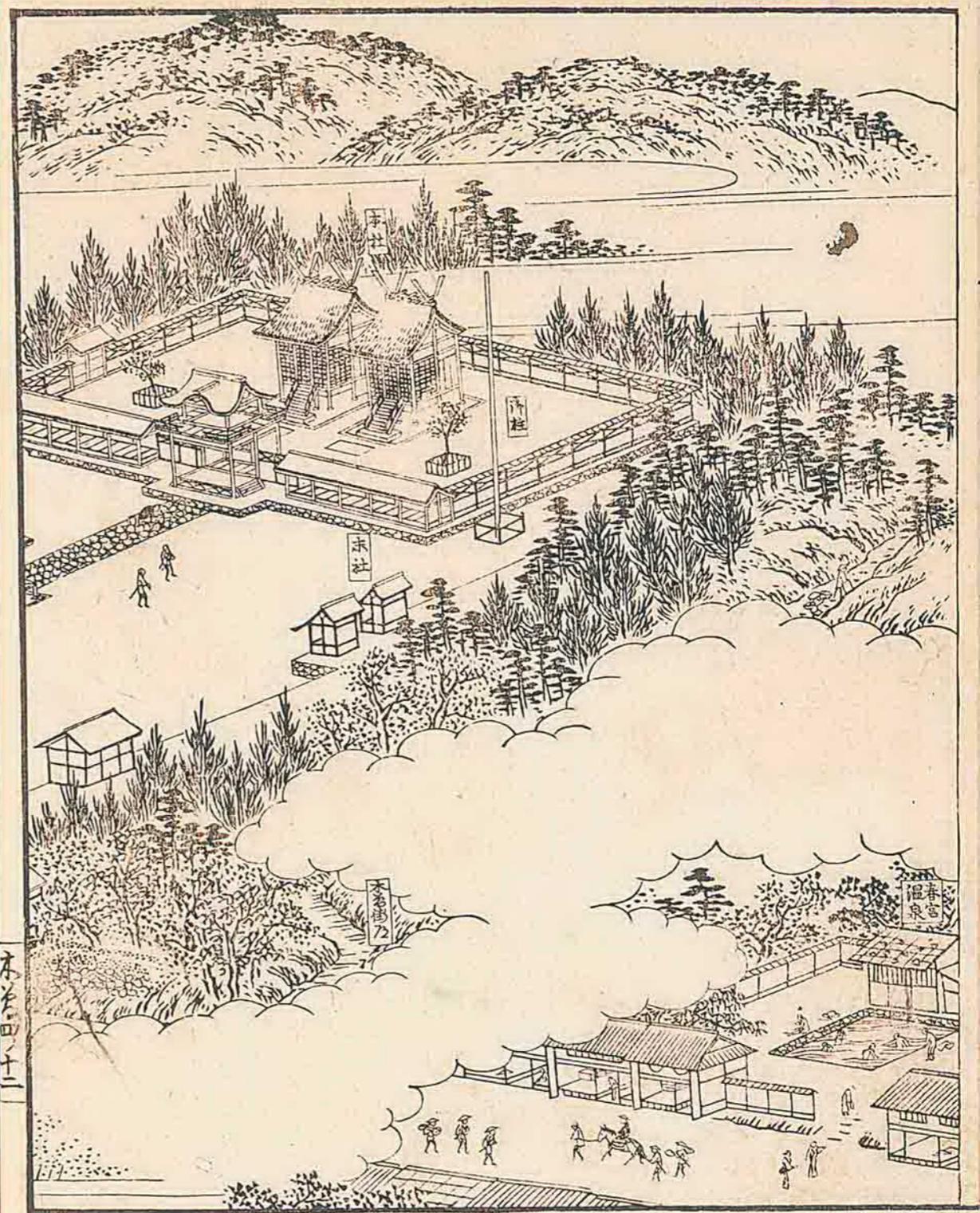
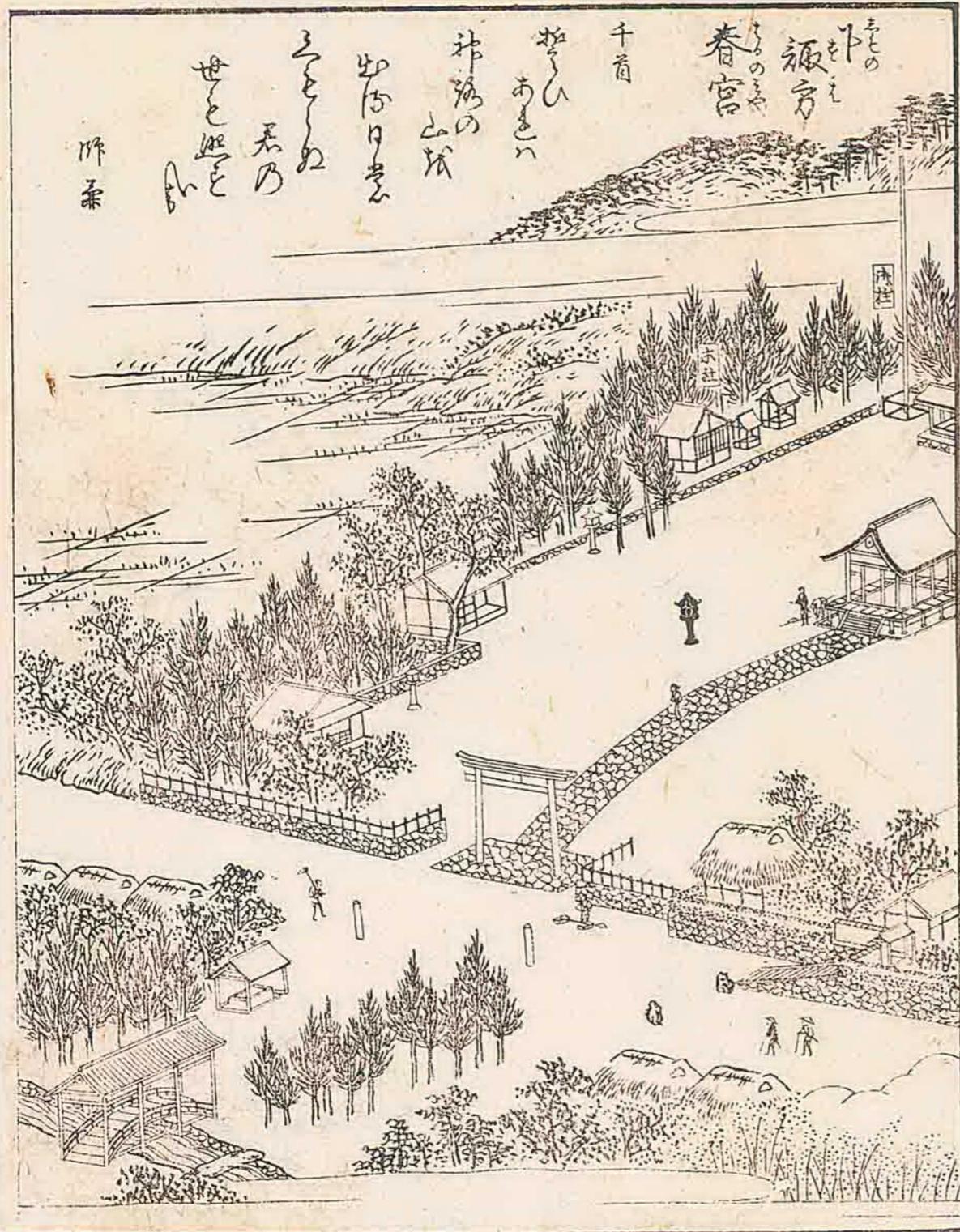
去程小法性院之僧正信玄去侍天正元年四月十二日逝去す

三年の間去程此奉成院密して今年天正二年四月十二日七佛

奉と執りてそとてそとてそとてそとてそとてそとてそとてそとて

敵ふそとてそとてそとてそとてそとてそとてそとてそとてそとて

勝頼 諏方泰詣應好藤



本巻四十二

と攻滅する企圖密かに武田の臣勝頼を誅め常に其備の怠り
に責めたる多し武田の幕下三河山家三方の内能子の城
主奥平兵衛守貞其子九郎信昌去月八月より遠河原松平
源光とて月長篠城小指籠る勝頼は幸城を小怒り給ひ志こ
出馬ありて長篠城と攻め籠るや天正三年五月中旬甲辰
の敵と出馬せし我お從之て武田道遠軒信連穴山左衛門右
入道梅雪一條右衛門左文信龍武田左馬助信豊武田兵庫助信重
真田源左衛門尉信綱を始とて都合其勢一帯を解人をして圍之
使川諏方大明神小幸清ありて往より進發せしはへりて
かの社小馬坊向に往る所小幸清の弟小指佐玄よりお侍
不龜甲の持陰梅極書の下より折るべきを不測され其より遠
へ急進ひる所板橋馬場より涉渡りありて小幸清を堅固ふる
橋あり中程より遠く落て舎人をけり小人衆三人を死せしめ

上信濃

河馬逸物とて小勝頼馬上の遠者めて申すは往て駿河と
すより河身小恙もせりわらふより今度の合戦いりあはせ
難人どもに松徳なるを理とせり武田三代元あり
和国大嶺 下の諏方城とて落合橋ありて両谷とも諏方山とて小和国
義盛の城ありて徳村三場ありて是より廿四所ありて急坂屋河に往り
又廿一町とて和国河ありては城の守りも空快なる所を急土山往
見ありて急坂屋河と東坂屋河とて三月の末まで雪ありて多し地は甚
多し所之嶺より往りて東坂屋河の河村ありて三場の急坂ありて
上和国とて廿六町之けし山中に名多し河網九輪葉下毛は虎尾川
釣鐘若し急坂屋河とては急坂屋河とて急坂屋河とて
旁より河馬をちりて和国河 昔骨
長之保中や武里之野の野に八幡の廟あり河あり和国義盛の
雲狐ありて急坂屋河の出はよおひ川橋あり和国が系とすは

長崖の南小之門虎之門村あり街道より遙くあり下河田を立湯
にせし密屋あり深山は村青原を以て小孫形なり依田川下大橋小
橋十間許あり南は溪をわたり山を越え東は之門嶺より南なり
又之門村の南ありむら武田信玄の信州征伐
之門嶺 小笠原の合戦ありしと云はれり

小笠原長村村上義清両家の軍勢一萬二千餘人、之門嶺へ押寄せ、
武田家の軍勢も亦一萬餘人、唯中へ以て其時晴信、小笠原内膳正秋、山
十市、藤原を以て之門嶺に物見を御付し、其後二人、おはせし、張りし、
折々、深く、ゆけ、小笠原村上西進、其の、杖、あり、其、勢、一、百、餘、と、相
見、然、も、後、小、備、一、二、萬、を、軍、と、も、懸、り、唯、少、衆、中、に、晴、信、を、
左、あ、は、せ、方、の、備、を、待、せ、し、八、が、歳、の、禁、甲、列、通、棍、が、原、に、陣、を、揃、
流、勢、の、内、足、將、隊、將、様、回、備、中、守、日、子、息、は、十、市、甘、利、が、多、人、加、川、一、乃
先、小、備、二、の、身、松、甘、利、が、あ、り、日、多、回、將、様、嫡、子、新、將、と、稱、し、
板、垣、小、加、の、二、の、備、の、先、も、日、安、回、三、萬、の、尉、を、飯、原、無、終、が、加、川、

二の先も小備を虎昌後と立壁を本陣の左備と士大将加賀守昌後
右備と原英渡守虎胤小懐小懐守虎盛左陣は市川赤女二子二五市
原と左陣は日与市常後備と武者奉加藤駿河守昌頼多回治和
在廣市川入道梅印あり、物見處本信及勢之門嶺、打越し、村上家の
先手布下平治入道知十軒、其外宗徒の者、た、は、ま、も、奇、心、の、列、と、い、
懸合の次と相計し、知十軒、小備、公、進、先、様、回、備、中、守、日、子、息、小、押
の、教、兩、陣、間、を、令、く、砲、弓、此、迫、合、と、始、り、孫、の、穂、先、を、拵、へ、互、に、場、を、
替、り、争、ひ、つ、る、平、治、入、道、の、大、別、の、者、打、合、を、な、れ、ば、自、給、以、退、を、士、率、と、
知、一、直、先、小、突、て、か、甲、列、勢、平、治、入、道、が、働、小、う、け、ら、れ、一、所、降、引、
退、く、こ、種、を、安、ら、げ、思、ひ、て、二、の、子、甘、利、押、か、つ、く、勝、を、以、て、信、州、
勢、と、あ、ら、う、之、を、終、小、知、十、軒、戦、中、け、く、作、の、旁、へ、引、合、を、武、所、退、之、
備、以、札、を、引、退、く、次、小、笠、原、長、時、の、先、手、將、領、山、内、膳、正、守、也、
か、け、合、を、入、札、を、引、ひ、一、が、小、笠、原、勢、一、萬、餘、人、は、け、大、勢、討、ま、



温泉
 湯の
 湯

中湯

上湯

下湯

拵棟屋

拵棟屋



温泉
 あつた
 おん
 おん
 おん
 おん

新乃

新乃

新乃

信別一万の先鋒兩度共ふら負一は之將義清之弟也我旗幸
とて之を誘取を一戦申交せん也其の心は押本不安心が勢信
兩旁互小陰入とて必死と戦つて信別勢の多勢とて大將義清
一戦申交と突敵とて其の心は進む所安回が勢敵のまけく
四度路の形をくす所引退く二の身も備へ飯家兵士率以
勇て村上勢も突のれ大將小笠原右馬助長時本牌を取て其
が勢も馳合を退く内敵つて其時旗本の希も備へ原加賀
昌後様陰小突合んや妻子の方へ備を押しつれ大將晴信自
来牌を多く旗本とつて左の方へ押入原加賀守が備と左右
より敵隊中にて様陰本とて突入く巴の字も兵の井の字も敵隊
突敵分りしもの信別勢晴信昌後兩備の様陰小敵走して其の
形をく散れ先きの二備をれして退るを限り小印と揚げ其首を
殺すに恨面一千七百廿二級あり味方合戦後死者を数ひる者

本巻四十六

信濃 長瀨

信濃 石荒坂

信濃 蘆田

海野平合戦

新兵合戦二百は核三人たり也其時旗本を考られたる軍記あり

蘆田まで一里半は驛の民居三三町ありを有お對しと巷と
かん其餘わづら小散在り

石荒坂 上は所より若老まで十五里
上の後方へ七里は間坂道あり
石刻坂 け坂より遠く妙義山あり

正月廿一里八町芦田河某が城跡ありは駒小服茶と愛
海野平と信玄と謙信とは所申と合戦あり又根津村は根津

甚き傷が居る所あり

十月十九日海野平に戦ふなりとて則ちの地申押出する晴信は

晴幸小幡虎盛原虎胤は二人を召れ果荒若之將とても項羽

状も欺く勇將とてを義清頼も今日合戦と必死十九

生くるなりとて其の事軍之海野三人物見よけと見候も

中宮より三之則ち向ひて敵の橋本を下雲一龍海へ山幸助助申

多るの故の備速なる申小濁子と申すの如く合戦を持て持た始と
 尚家との取合形は甚備の他法最守とせやる原小懐がや乃の
 款成程合戦を持て備蓄と相見の人数六千の内介とせやる
 斯く二人又誰とせも若きれ沙汰を推しや申し勝任汝等二人の
 外まに何とせ候べきとて山幸と申すれ備の高儀ある時幸味方
 備の立極を悉く演台とて宗虎の少勇將ゆとせし味方の一万五千
 勝勢今日午刻申すて兎角して時刻を極し推し味方の吉刻申す候
 若し別強の大將出陣勇勝とせや候とせしれ樹と形は
 敵と味方と弱く味方の利と候とせしれ樹と形は
 申す所あり候とせしれ樹と形は
 右の方小山田備中守信別先方の相本市産勝尉月甚八芦田
 下井吉友壯平尾岩尾耳取依路平原左と郡内の小山田左衛尉
 信員先方共長座左衛尉小若甚八松尾五郎左衛尉和田福次郎



大門色
 若宮八幡

後掟
後拾遺
河死
千載
新古今
類題
六帖

かつらむをそとて結と婁控のひより山月をりかた
 源重光
 おてらも婁控山の月を身取よをけしおとふあつと
 赤保傳門
 思ひても形くても我身あかす婁控山の月をそとせは
 律昨無委
 いこも月わつとつふまをけつてんうまの心
 隆源法師
 けつまも婁控山有船のほたきをのてらふひふ
 侍勢
 てる月とてかろてく文級やきぬの寺と好芳は
 後拍原院
 婁控の月をそとてつと何あつて君もあつておしき
 漢人志は
 母のけや婁ひよりなり月乃友
 たせ狐
 名の月や田毎乃玉か風流
 舞島
 眼をそとちとくそとて源一や夏の月
 菖骨
 されをも更級婁控山と芝田の跡より七甲ふあり其所は武水別神
 社あり式内大 今八幡村ふ所の社領式百石又冠嶽の麓にたつる
 巖石ありそれを婁石と名ふ 横十間條 けりやつて菴とてり満月
 本巻四ノ二十

殿とて二間庫裏半 巳午に向ふ幸尊とて親善院院長樂寺や
 号は面と棚田の上小隱と神田に十八畝とて兼く神供をまを中好
 掟とて水が中とて田毎月のはるやのひあつてそつと山と東西小横
 とれ西にむく千隈河巳午とあつて良小海と月満と浪地と
 浦と小瀬とて左共八岐の社あり川と浦と向ふとてこの地あり武
 水別の神跡とてやあべ一の唐とて宮寺の子院とて系統の宮を
 せけつとて人里遠くとてあつて源一好つとて源と月とてまを
 今より百年とてつとあひつとれ雲水清けあつて源湯とていそつと
 源とあつてけつとつと月のをより雪とつて唐とてつとれ婁控山の
 入相の清とてまぼつと物あり中とてまを白波緑林のたつとて
 あつとてこの頭陀とて源とて幸とて親善院とてあつとて山とて更
 級門田毎の月婁石甚侍小桂樹姪石小袋石室とて他とてつとて
 有明山とて一帯山南とて雲井橋とて十二重塔とていそつとつと

望月

八幡中にて二指或所、あねらり、吾光寺に十五里、
越後高田に約指八里

望月城址 尚宿の末れ山の上あり
大伴神社 今津 神社と社にけし生去社
望月山 滅光院 日 弘安あり
禪宗曹洞

奉尊阿弥陀三尊佛 同基望月遠江守法名滅光院殿東岫
盛敷庵主 文明二年辛卯十月十七日逝去

望月御牧 今牧乃系といふ

拾遺

逢坂の關に清水の敷をてて、や幸らんと存名駒 紀之之

後拾

あま板板のむらまき引程の押あられのあねらりら法名駒 良選法師

金糸

東海にたふす物、望月の駒あつひと何ふさく此 源仲正

新古

さうれいふ代の古道約とめて又落りけふさう月乃駒 定家

新千

むららもあつとぬく福ねや面けらつたを月此駒 花山院

後拾

年次及く雲の上車えん、林の影をさひ、きや月の駒 後法藏院 津製

拾遺

望月の駒より遠く出ば、まゝとくせし、山とあつたあ 素性法師

後拾遺

さう月の駒ひくと、たふす坂の本れ、下をさきとす 惠慶法師

さうい例年勅りつて駒、案あり、天皇崇養殿、出清あり、信濃の

貢馬を獻覽し、たふす我、貞觀七年十二月、小制む信濃國牧馬、え八

月廿九日、古物、貢ぐ、今十五日、申定む、まゝあねらり駒、中月の駒有

むらら、清教七郷、中てけ、逆色、みか、清牧あり、一や、望月の駒、素性

より、又望月の神乃、嫌ひの、よより、車、望月あり、ひと七、の内、鹿毛の

馬、望月、依新より、本、望月、一、板、望月、ゆら、さげ、と、我

延喜馬寮式牧 信濃國

山鹿牧 諏方郡 塩原牧 岡屋牧 宮處牧

殖原牧 筑前郡 大野牧 伊奈郡 平井互牧 筑前郡 笠原牧 伊奈郡

高位牧 高井郡 新沼牧 佐久郡 大室牧 高井郡 猪鹿牧 佐久郡

荻倉牧佐之郡 塩野牧日 長倉牧日 望月牧日
角摩川角摩川 角摩川角摩川 角摩川角摩川 角摩川角摩川 角摩川角摩川

瓜生坂瓜生坂 布引山の道あり

八幡信濃 八幡宮の在りあり

六十六信濃 六十六信濃 六十六信濃 六十六信濃 六十六信濃

筑摩川筑摩川 筑摩川筑摩川 筑摩川筑摩川 筑摩川筑摩川 筑摩川筑摩川

をほくく河中橋河部の境を流るるを摩川と約が嶽山出く
筑摩安曇更級水内界の界を流るる筑摩川水内合流と云ふは河

と云ふ城後の新河みて志家の川とも云ふ

万葉 信濃宗流知具麻能河伯能左射禮恩母伎彌之
布美氏婆多麻等比呂波牟

風雅 ちくほ川事の水をみふふり清ていづは事乃云々
新後古 君代ちらまの川乃さねらちむと成はせと云

雲玉 名のみみ降をほりて千隈川は種や家世多小神と云
扶桑略記云 仁和三年七月三十日信濃國大山類崩山河溢流

六郡城墟拂地漂流云 六郡城墟拂地漂流云 六郡城墟拂地漂流云

金峯山の山陰山又あり人を呼んが研山と云 金峯山の山陰山又あり人を呼んが研山と云

ありと本石小尻をびかどて人を目送り又山焼の履とて長三尺
許藤所曲く本皮とあはゆるそのつらや固くは種山老翁

川中流

山幸勳功記

川中流より十里許あり昔先かた
 上杉入道藤信川中流に合戦小笠原時成交せんて武田の兵
 備あれど十分すむがた而も山幸が兵味方の之を障とありて
 旗平のけしきを一時小笠原とて後陣の甘糟直心等小笠原
 軍の堅固とてや中流にみづら旗本備一ふ餘人の兵を率し先
 陣をうけ抜接するに馳通く信玄の床机乃儀成目け突つて武
 田方の軍備と成るれに御先陣飯高が備と其穴に備を
 信玄の旗平や只三備をうり場とさしてあさる信玄の
 手は運兵を率し育をな亡以死んと勇氣日以小百倍して突
 入る小旗本の軍備もあつたれ中流に幸長坂約末跡助之助助末
 之向より防とて上杉勢勇壯めて多勢なりを幸とせり

探立るるを幸長坂跡助の二將其勢力相敵がて突つてれ
 散れせし程小笠原信玄とて三尺守の大方なれば只一騎信玄
 床机備も馳けし信玄登るるに迎撃等に命じて御先陣飯高
 一軍の勇を振るるれ武田の兵士あつたれは行進するひに首を
 得小信玄も今助を考ふけは速く小笠原のやぶを討たれども
 去て熱坂軍と成敵軍は武功も水の泡とて悟りてあつて
 登る床机もかき動して押つてを信玄とて老成切せり
 形なく信玄の床机小笠原兵一討と思われが日頃の信玄三人
 中を我の有る信信きは速く程結せしれがすうが長將の
 其後相を考へて見ると駒を馳去る力ありしと馬より
 切先りり小旗石を碎けし切符とて信玄床机もきりし中を
 刀を抜く信玄のひが將信信がきりし長くすむびつが
 小笠原も信玄を討つて老く見やられたるの若武者とて

筑摩川

あぐまに
家おゆり
ふるぬ河
たさく桃ま
うけゆして

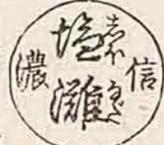
三州吉田
義方



後信小助の主人をさうく殺し小道の後小助なる日下出立の
新武者御ありて声振け後信なる一を振振くそのかたう一
智深の細みゆり入らね道々幸あすまう一匹共のふ小からんより
伝言みゆり其首が初ぶ一せ好りなるも我と後信とてび騒たあ
りふゆまう其の信言なるやせ好り一日出立の幸まもあざんけら
多ふ其申ゆは信言あ人幸必定く思ひまげあなる三人をけん
と火水よりく物さうり山平助助入道の生も小加りう欲の生深と
信言一大将後信小道人と尋求一かども双方乱軍や成り加り
一後小助方の旗本らとせ形一と返り返り處に敵將後信経流
切とめると床几備を崩し信言みゆりさうり一若るその有る
再登山中道鬼と大幸ぞせきふ馬小鞭をさう雷電よりのと逸
早く飛ぶや否や陰がゆひゆり無二事と後信月け突つてふ
其陰先さうり好まう一その後信あうりて何やうなる我敵ひあ

坊とけん事奇傳之やうの種を我事申中助助勝華入道がわや
名宗なる小流伝叔と無双の曲者系返の老一遠信言申合形がう
け傳述人を殘念するやとられかじも續く傳方をやううくぶあて
空しく付丸も事血方り一旦退れ味方の兵と事申あくと是悟一
中助次つう控く馬込返されらるを助助入道堂中に入つる將将どくか
迹をささや飛ぶごとく小退けけ一が後信の系馬と放生月毛と年を
内事變の獲足るわいとうめを方尚事あく騎人も名譽の遠者成
左助助入道とを怪しやとでも退き事成れば後信とて小味方の
陣中小わけ入るとせし種を成山平道鬼けるうふんを思ふは念
かりや頻小馬をちく飛べし其間立るをうつとんせく怪小持
たふ強を投打さう小程きくて移しひざうて後信の事する馬の尻
曲小突當らうさばれ遠物されを陰傷あがり形がうも獅は中進
を申あうく大小程さく原川の方様助ふけ申其早紀事烈風の

171



おとくさる種小形方成足多ひる道鬼齒がみを形一敵軍を
白服人ぐまてりけれ 熱功記申あり
八橋の駅をさく今世敵村下原村みまをせの生込成及くらる河川
みつる種と申入の経違ぬる山河を差小見つるううはく小見はる
きのふとやいそんままかやのむせう一我今と申は敵身老とる
今とむしや申をくは我んワ一古今と隔川ふその我あるの申
され小過りあはらふの差とあうらうは所をさ我眼目又いざま
所あて今ときのふとのそん嫌よ過ぬるわこの兼月と差う差小
うはうぬおど思うたたりり小流離とつ小流小はさぬ
岩村田子を一里申就内三所許お射して巻とけん傳を
散をい入小流明神あり是れと申あうと流あり

駒形明神社 駒形飯の忌日乃

因云むくれ牧馬流種と申中なる清間山の藤藤なる石作やとらふ

この里の里ありあは氏何某と云ふ者之縁の年以約の石ありたきよ
 見し幸ひと教とて其石及び其石の石畑と云ふ地より駒の石はなる
 石地より畑出さるるを感して年々花月の中北七日とて
 其石の石

佐久郡相本村

新田

高サ三尺四寸許



後の方へ長く基不れなり石を真石駒も同色
 駒の取の内と云三分程なり

今も社を建と駒形明神と宗光おと
 け駒瓜とく下塚原上塚原と街道より山あり新と塚む
 と越く平塚原村より

相生松 平塚村あり

岩村田

小田井中を一里七町駅内の町五六町あり相對し
 巷は其餘散在に善光寺へ別進道あり又小猪丸
 道二里あり又甲別地乃道像あり尚駅内藤原徳友
 の領地と云人なり

恒吉祠 小田井中を原野と云ふあり

かまの原 芝田藤原北流あり石ふれ林の杜有

小田系

追分中を一里十町駅内武町より長く豊後ありて
 旅舎あり宿懸し東の出口に業師堂あり追分北越

け驛乃中井溝ありて流儀一用水よりちこれと云ふあり村

ありてより飯盛ヶ嶽ハツが嶽見ある二四月の流中を雪あり是より
 系田系大久保橋瓜渡り追分より坂道ありて追分新あり

信濃 追分

宿掛まで一里三所宿より一女あり
 け同石をよめて道口あり

東山道 追分 宿の西端ありまねより越後のり越中加賀越前と經く
 北陸道 追分 追分より北陸道より若老より十八里越後

の界園川より新中まで追分より廿八里越後の高田二十里越追分
 より小玉乃越二里半より小諸より新あり牧野内膳より追分
 小諸田中と經く上田(ゆ)ゆ種と小玉道より追分より上田八里半
 あり筑摩川のほとりへ杉平伊賀守侯の居陣越越後より法の賣抄
 あり上田中經り一鬼打も多しやのよま田より新も上田乃
 奥より又上田より八里半奥より松代と云前あり真田右京左史侯忠
 兵衛其先小丹波鴻より引あり筑摩川を引りけ越川中鴻より
 筑摩川と犀川との中より色(川)中鴻より其色小横田川あり赤
 むり一本為義仲と平家の方人越後城を帯と合戦あり一所し

東鑑云 永元年十月九日 越後住人城四郎永用

相繼兄資元 當國跡欲奉射源家仍今日木
 曾冠者義仲 引率北陸道軍士等於信濃國
 筑摩河邊遂合戰及晚永用敗走云云

淡間嶽 小田井 追分の縮野井 淡間山の麓 通る

古今 甲とぬぬ淡間社心乃淡くや人の心後をんて其本ぬぬ

後撰 志は淡なるわは淡たあもりの言れ義士の種れりあらん

千載 藤ふたは淡るは世にたをわが川の枝をのりぬ世と

拾遺 川とて我意守ひふ経破淡間社けのたつたあも

新古 信濃の河をぬれ嶽ゆへ種とらこらのみやとらぬぬ

日 いろく小玉やあぬは家より里よりひつぬる遠を乃山

勅 志る行は淡るはたけの種ゆをせり一は淡ぬぬ人育る

續千 志まら淡るの一方世はたぬやあ人のあらとらぬぬ

若水法橋

紀世之

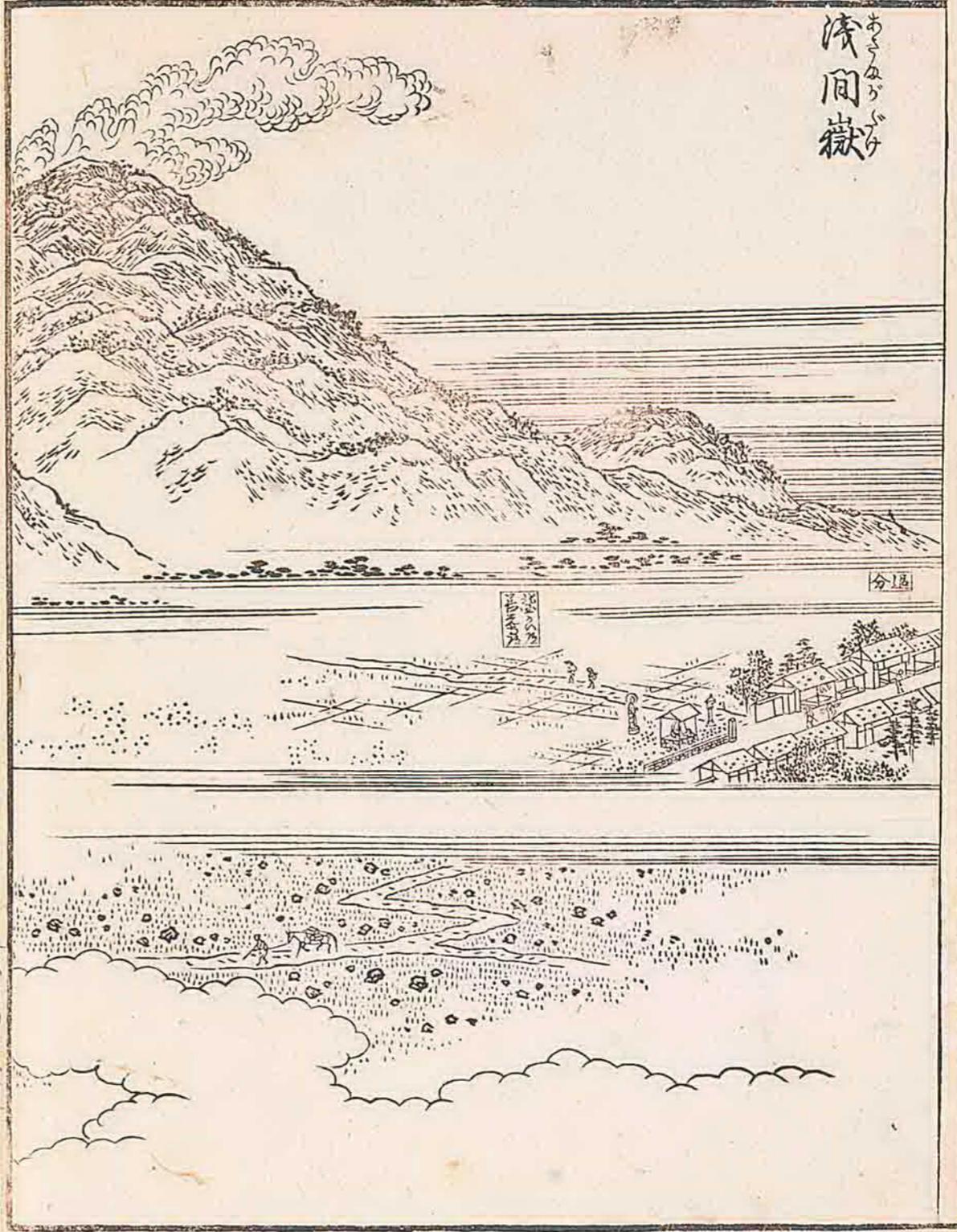
業平初居

雅經

伊守國造

伊守國造

あさひが
清間嶽



ゆのひり

絶ぬか
安城

清る年

あさひが
も

まの
種

う
那

清
菴
店



物より平野にまで三里大畧考と本郷のりこの中と申すより上平
本せむ一日は中きけり一郷のた附あり大焼する附あり七里乃間
野一と鳴動と四重橋の敷ひをきりた附あり幸あり焼石も焼く
け焼石道のうらうらに多くあり幸は石より一郷一色と所色あり
少一とく耕作の傍あり一所に集る傍あり大焼する傍あり小焼
る附ありあり戸のありあり一とけい大焼の折あり一所の焼する幸あり
り一此山と江戸の方へ近く受流尾張の方へ遠く一修勢物語は業平の
道行の修勢尾張の意ありありありありありありありありありあり
書ありありありありありありありありありありありありありありあり
嶽と終るゆる業平は武蔵上野の行ありありありありありありありあり
修勢物語を編る人本よ書入る名進を此所よりけ修勢まで二里
あり又修勢より二里中けりありありありありありありありありありあり
佛と安ん絶頂の大坑よりありありありありありありありありありあり

附地火災突發一火石はともり一石石はともり一修勢はともり其神く
敷百里小園由けい今夏月は香子神をたて立雲の後百餘日自
て雲の晨のや一又中林より霧をくありありありありありありありあり
焼く又此山は尾系松生ん又土松のや一又世の生ん徳の生ん
の邊より狩野沢まで去地別して高れ所之寒氣甚はり一又穀
石毛の地といひはべり

額方社

神科

右宿村あり三代寧ろ澤伝抗慶二年七月授從五位上
例祭六月十八日は祈の生土神とん
過分の延を極く難く小園の諸侯多くこれに社に還り給ひたれは
舎を多く又奇麗くこれより狩野沢までみか湊間山の修勢からけ取と
とくかつ宿あり右宿と紙て皆掛の駅ありあり

皆掛

狩野沢まで一里五所は秋中三に所をうら左右お對して巷は
打ん修と敷を一農家多し一宿の入り小湊間嶽の道あり

過分皆掛野井沢の三駅之清田山のぬりごと其麓より麓まで
一里中といふ皆掛より野井沢まで六分半也なり

塩沢 左の方小聖陽の池あり樹たよりいふに
は池より流るる川あり小溝あり水鹹し

皆掛むらびまきと岩沢村あり坂あり左右皆系なり塩沢村
城とて新田むらむらむれ村たよむらむらありけとて平系原た
り道の左右みね原あり

坂中まで式里八町野井三町より左右お射して巷とふん

野井沢 信濃

其原を山間小敷を次は所を遠近里といふは信濃物産なり
よりて坂人の名付しその形なり

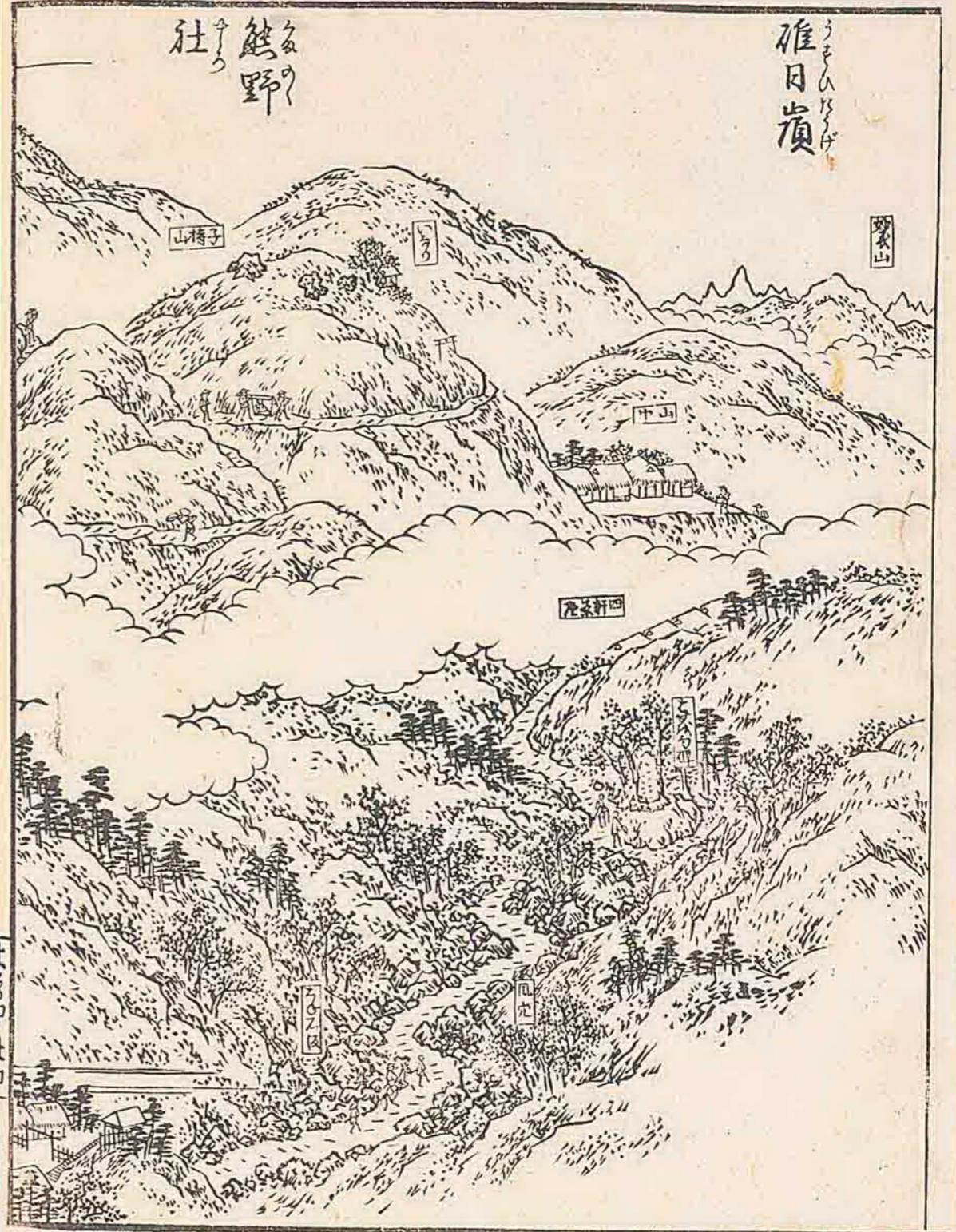
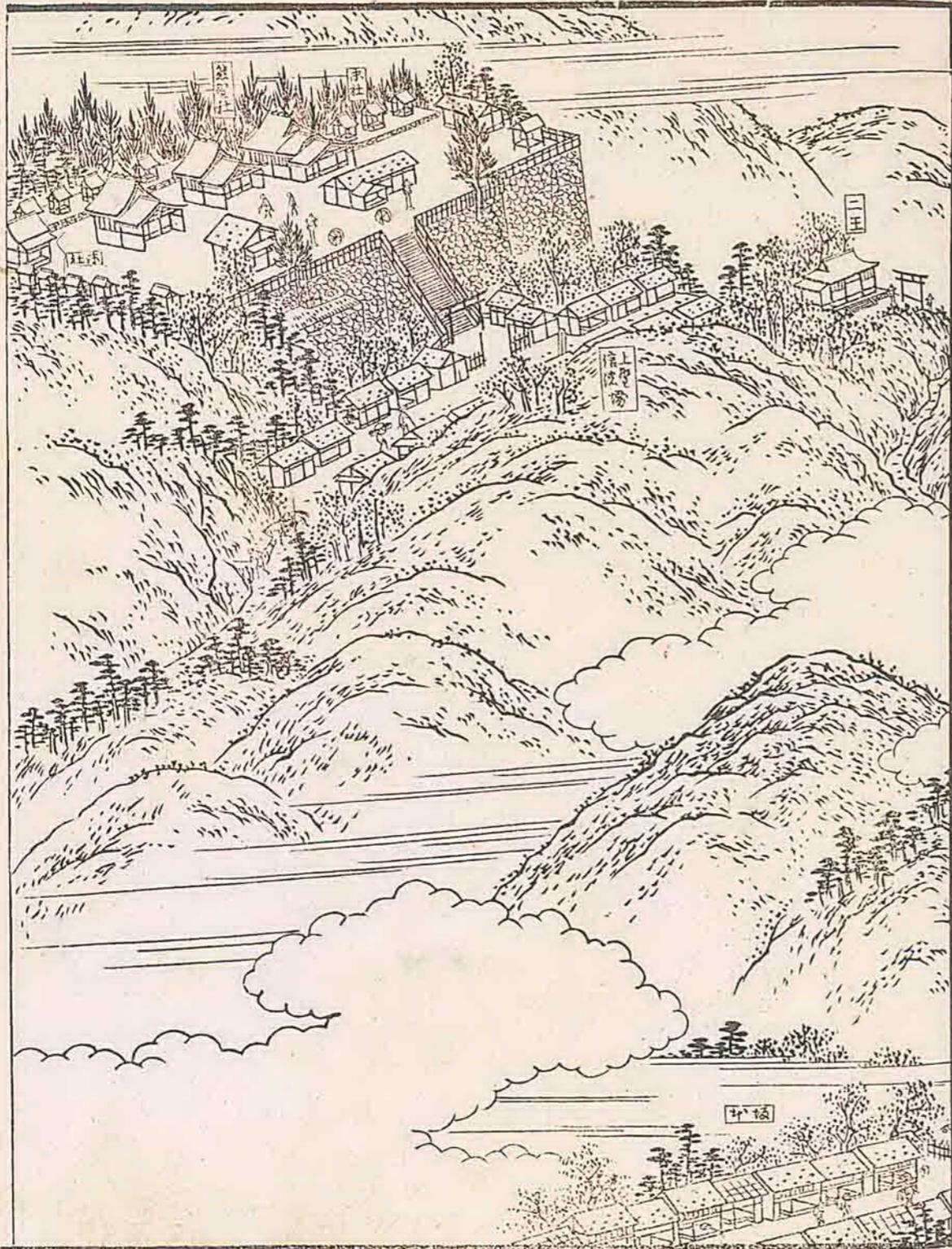
野井沢より唯日嶺まで三町ありて東の坂中まで式里原
よりて坂小松より其原より信濃を日幸の内よりて地原
よりて所て其原を海までして山上ありて四方の障あり

信濃より唯日嶺まで式里八町野井三町より左右お射して巷とふん
信濃より唯日嶺まで式里八町野井三町より左右お射して巷とふん
雪原はれど地の傾きをなげぬりてありて之より中野井沢皆掛
迄これ二宿と清田嶽の腰よりて地原よりて高しけ三駅の間中あり
里よりて東約式三里が程よりてなる度登之寒れ津甚くして
み穀生むらび只稗蕎麦のこまき又菓の樹もあり民家あり極
本形

唯日嶺 野井沢より北二町あり坂の上小あり民家あり唯日嶺名唯日嶺日幸紀
宇須比坂野井沢野井日白井東盤笛吹嶺太平も書あり

名義一説唯日幸武を此地小松路よりて云又け尊東延
たす唯日嶺より夜已の方松眺み橋を志すひこすも歌ひて
吾孀者耶くや室ひけ所ありてまねり東の園を吾孀を

いひありて日幸紀を見たり嶺より向より平方なり
教く峯より神社ありて通るるの名ありけ嶺あり



社
多
野

雁
日
嶺

太平記諸將合戦云

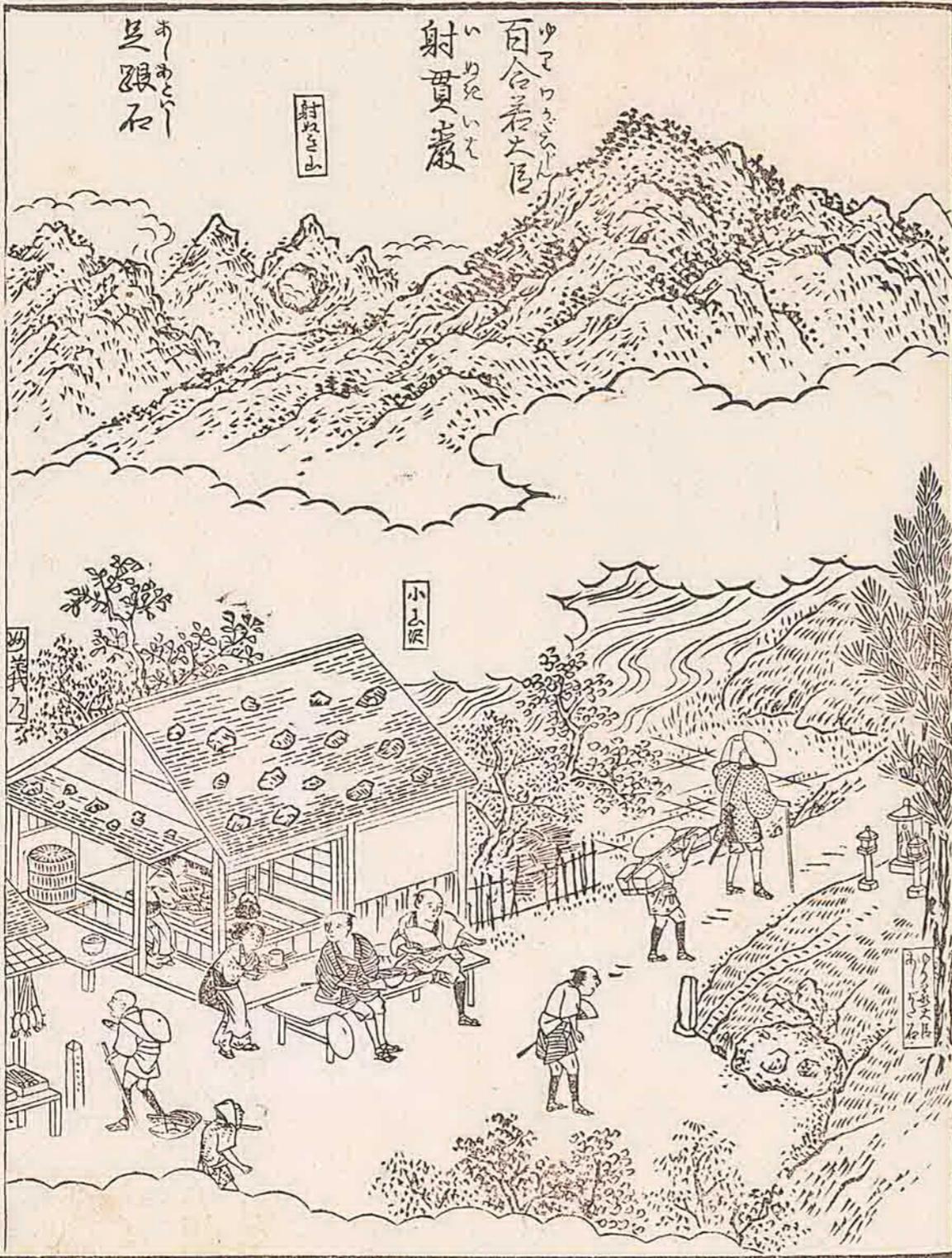
西より坂東に八家渡り東海道の足柄山箱根山のや一確目坂より東と
見まは武蔵中総常陸上野の山とゆふ筑波山日光山特小
高の山と云

新田武義守義宗と足利將軍の清運小退後して石原の合戦も幸を
達せしむ武蔵國と赤松の城後信濃を後も南の南條陣
とて北條の陣と見ゆるは北條の合戦も幸故あり石原も北條
浦光輝と一合其勢二萬餘騎先朝第二の父上野親王を大將と
て南條陣小打取れ將軍小倉景宗の合戦も幸故あり石原も北條
より一合と云れを馳走り北條の合戦も幸故あり石原も北條
一合其勢八万餘騎將軍の清運と馳走り鎌倉も義興義治七万餘騎
母と志願を付くとすく武蔵の北條義宗より北條の合戦も幸故あり
北條の合戦も幸故あり石原の合戦も幸故あり石原の合戦も幸故あり
よ大勢も打勝るべからず北條の合戦も幸故あり石原の合戦も幸故あり

定て將軍の二月廿八日石原の合戦も幸故あり石原の合戦も幸故あり
源氏武田陸奥も一合の合戦も幸故あり石原の合戦も幸故あり
司公始とて北條の合戦も幸故あり石原の合戦も幸故あり
よとく敵の陣と見ゆるは北條の合戦も幸故あり石原の合戦も幸故あり
取て幸も北條の陣と見ゆるは北條の合戦も幸故あり石原の合戦も幸故あり
の故と云る旗も其数満と云るは北條の合戦も幸故あり石原の合戦も幸故あり
とて甲斐源氏の子孫も幸故あり石原の合戦も幸故あり
荒木の城後勢も二万餘騎も幸故あり石原の合戦も幸故あり
逸見入道以下宗虎の甲斐源氏も百餘騎討まくと引去り北條の合戦も幸故あり
千葉公宗北條の合戦も幸故あり石原の合戦も幸故あり
陣へ押よと云く入ると云く北條の合戦も幸故あり石原の合戦も幸故あり
客もも二万餘騎討まくと引去り北條の合戦も幸故あり石原の合戦も幸故あり
追ひ返り其日の平朝より西野の合戦も幸故あり石原の合戦も幸故あり

見田五郎左衛門松野田等なり既小三万三千餘人の軍勢先多ふ人
備後作と世方へ赤坂後陣と隠く備と立く作の彼方小押付り大將
板垣信秋今日の先鋒と信秋は重下りて備後作は龍舟向ふと龍
見上れば勢漸く二分一作は方より敵より後陣の勢と信秋は合戦
を始んと討別を我も極きりて敵の大勢陣と越ぐる勢に急ぎ打ち攻
崩せや一隊小龍舟一乘陣とさるく下り龍舟あり下り急戦といふもの
敵の先陣上回又次郎が先鋒藤田丹後守が先鋒と云釈を極く突てか
三科肥前守廣徳に左衛門尉一巻小巻瓜入ふと持不徳の士率口は
押さるや突入く追川さつて敵より是と見く回又公希後回付
す不徳をよとて丹後守や下りたりとくお戦ふ後回士率と勇気自
龍を抱く龍まらつ所を廣徳に左衛門生年十七歳と名をよと丹後守
也押入引廻り西馬が同小巻瓜入りて志づ一勝負をあそひし所が
難行く丹後瓜抱くお入首控切く起上りて藤田が從兵主と討せ層不

せん也退取巻度瀬が即ちお龍舟見く追く小龍舟を敵の即ち遊を
中に取籠く只下り五人突伏りて後輩傷かきぬく是非なく其場と
敗走り上列勢は後陣と候く後々也と云ふ雨と板垣急し切崩ふと
大々敵軍辟易しと旌旗四散路丸まら丹後守も早討れぬ也
りし程もあま者ども返り各々也板垣に下りて龍舟を見おせ
口が軍勢がりて競ひあふ敵隊後陣とけ場とさしと我も操るる
上列勢の二陣降退軍人これをえとくきたり者たし退りて武田勢
の曲淵に在る一巻小巻を今と然も龍舟を討たるも進んで攻ま
二巻小巻と曲淵小押くぬ剛兵多道の神成りばほく岡を極く
馳入り左陣のけ方より越りて五子隊人の軍兵立是もけく一戦小龍舟
らねく右陣左陣不進走不降固集人踏止りて守込区を心掛り居
風情も敗士を恥しめ居る所は二科肥前守生年十九歳とれ小龍舟
内ふと心く先子の清役者とて我入るれ新級軍小及り上りけ不



切所にて公の儘よ小返しもあらずに見奉るはれおれらるるの形
 迷月勝負して教るお首さうも殿の去産お仕更といつて怪小陰控と
 けり合ふ公將さるや昨思も互小陰派お合存く怪く強くと見る妙よ
 三科力足と踏ぐ鉄壁も碎ちと突給ふ軍人の内甲と突まき馬か
 洋よぞあつらるる肥前も右あく首公さる事なく二陰三陰も小陰
 拳動て則首公控母に松井田を移をえとくちひは好定信とは真の振
 舞うか是非小返して討死をせよと究竟の者と馬あし連子備と屠
 仍小返く切所を越せ二二二本及討へんはあ公衆承日向相本若田氏
 始とて朋勢とめと突つる中も上盤を及も向急泳を布が首と
 そり己を子負引返く上枚勢散々に討負く作を越く敷さると追借
 く討死程小款の首公ゆる事一千貳百十九級武畧すめくお公めて
 大月勝其日の午刻よけりて大將後河守信形勝國の法式を執りせ
 其身床几小腰をうけて軍政と奉りせる分世へさぶらうる事將の如くて

天晴美く一帯を巡る小舟 舟の笛吹合戦記を

熊野権現社 熊野の権現社の所あり幸社三本末社多し一帯に殿神樂

信濃上野國塚 塚あり

刈石坂 十八所坂險難あり

万葉 山の中白碑あり

野井 野井をまわるとわ板嶺あり

山かきあつてまてり河を阻りて南へ海まで

離まてくまふく新路あり

一盞の酒は酔く道は倒まて泥のどろり

舟のりてまがし権現をまわし山中村あり

に観ひ伯夷あり糸と蕨餅を活す

路はしれをいそぐ坂本の駅あり

松井田中を二里守南駅五所許民家相對して巷をまわ

上野 坂幸

松井田中を二里守南駅五所許民家相對して巷をまわ

上野 横川

横川の流をめぐりあり青街あり

上野 百合若足

百合若足石と山道の道の側あり

上野 射抜

射抜の穴あり

上野 魚山

魚山の穴あり

上野 松井田

松井田の穴あり

八幡文の舟一泊宿あり